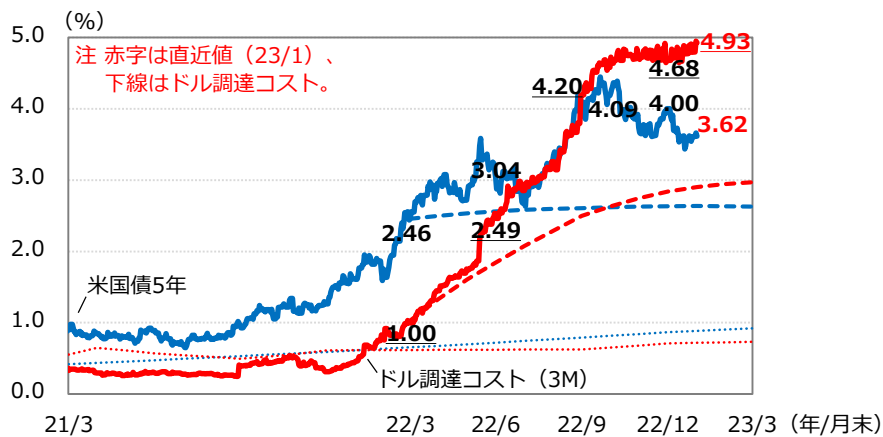
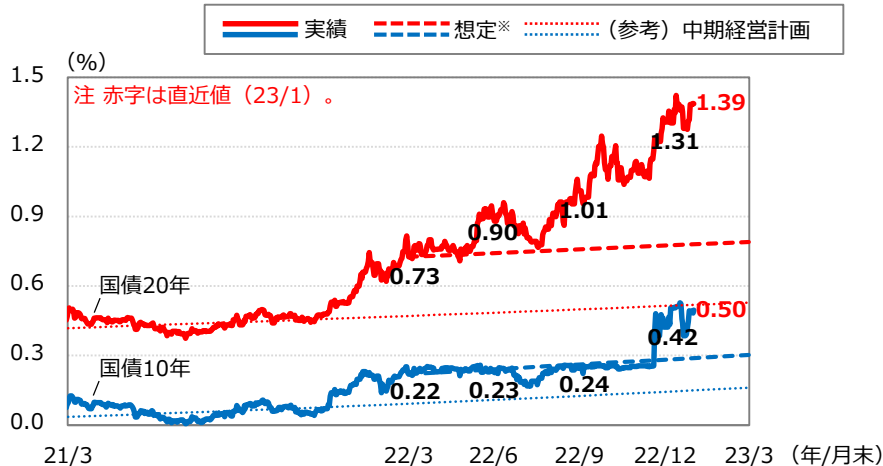


# 金利等の状況

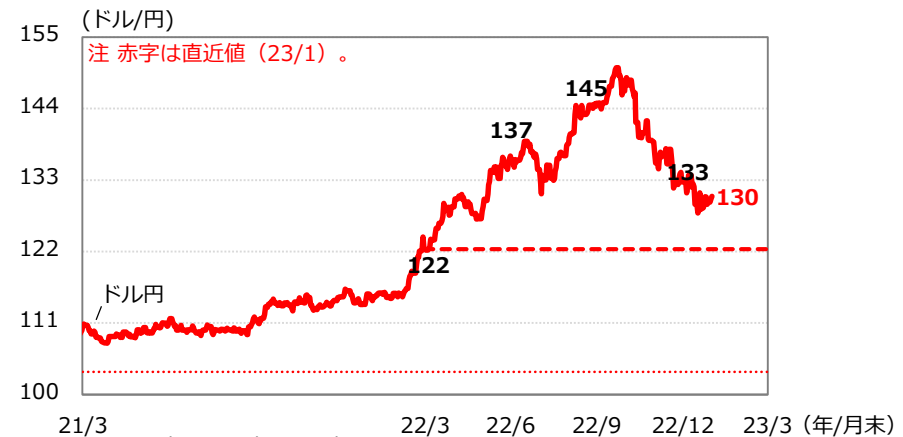
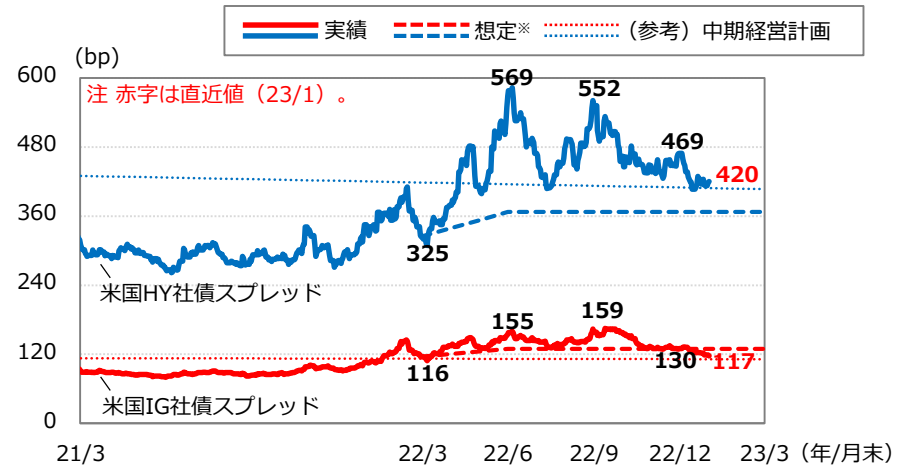
ロシア・ウクライナ情勢や日米の金融政策の動向等から、主要なリスクファクターが想定※を上回って推移。

※ 22年度業績予想策定時点の想定

## 内外金利／ドル調達コスト



## 米国IG・HY社債スプレッド／ドル円

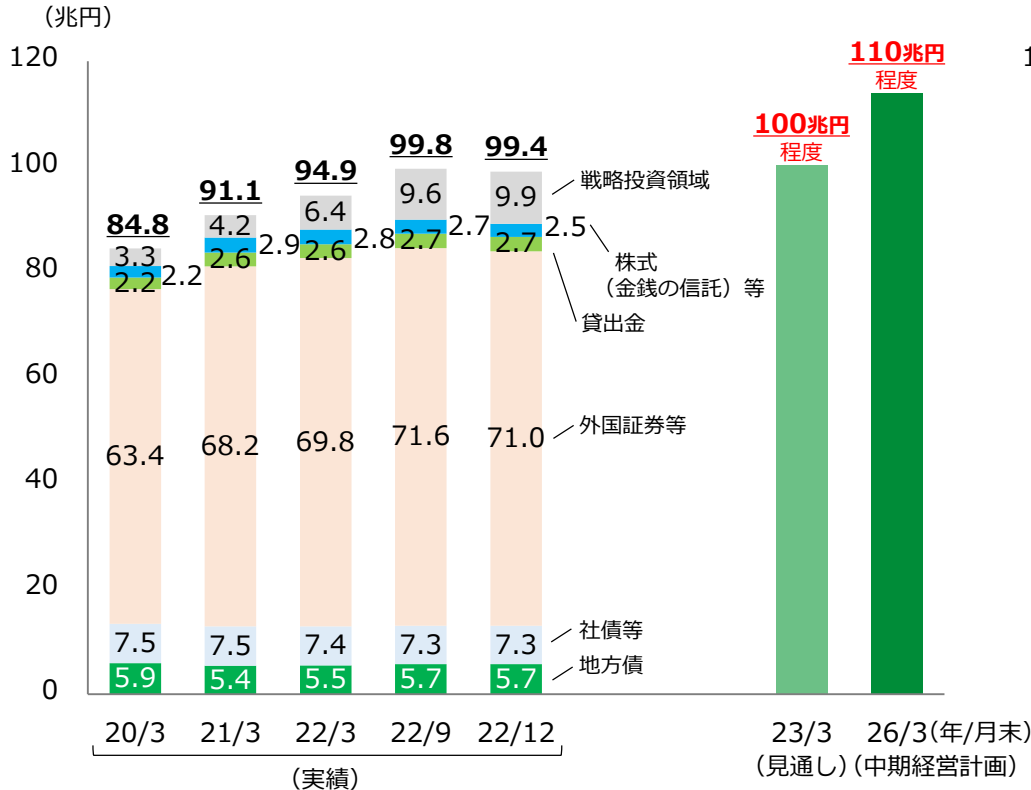


# 資産運用の状況 ② リスク性資産残高

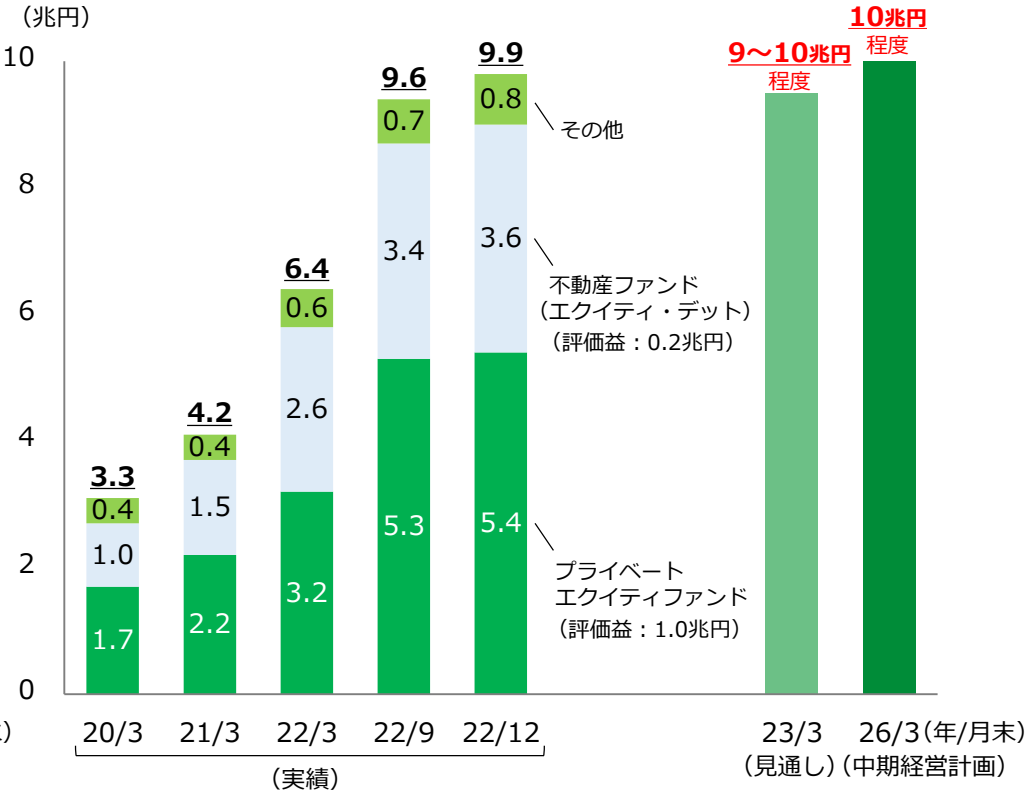
22/12末のリスク性資産※1残高は99.4兆円となり、22/3末比+4.4兆円。「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（21年改正）の適用を受け、プライベートエクイティファンド等を時価評価したこと等に伴い、戦略投資領域※2残高が9.9兆円と、同+3.4兆円となったことが主因。

※1 円金利（国債等）以外の資産 ※2 プライベートエクイティファンド、不動産ファンド（エクイティ・デット）、ダイレクトレンディングファンド、インフラデットファンド等

### リスク性資産※1残高（単体）



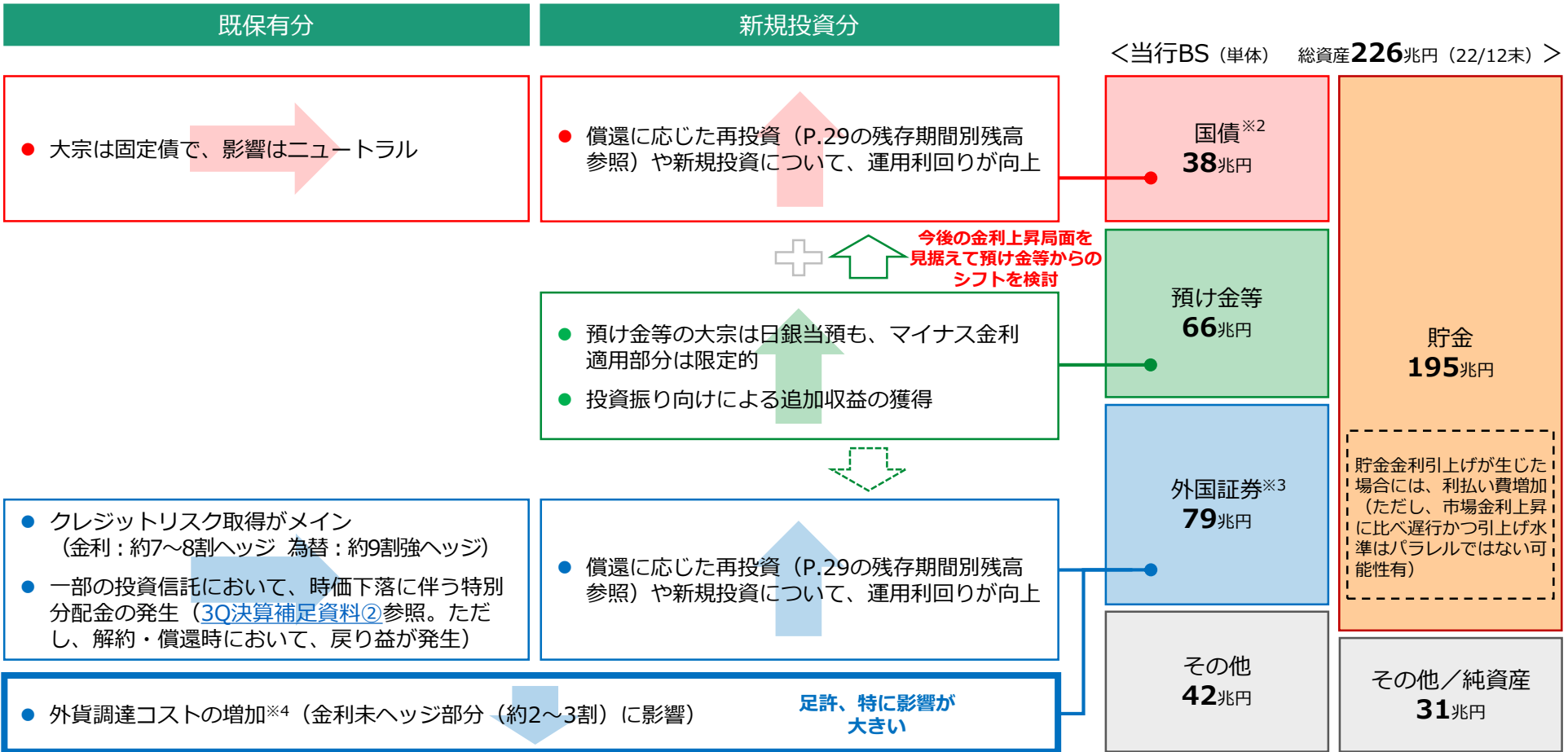
### 戦略投資領域※2残高（単体）



注 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（21年改正）の適用を受け、プライベートエクイティファンド及び不動産ファンドの残高については、一部アセットを除き、22年度から時価ベース。

# 内外金利上昇・クレジットスプレッド拡大の影響①

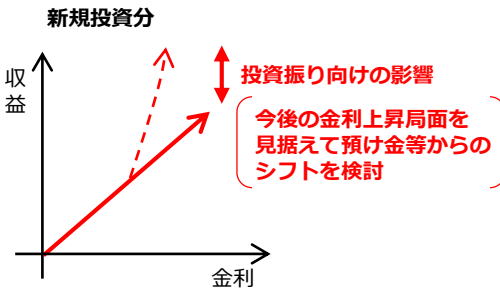
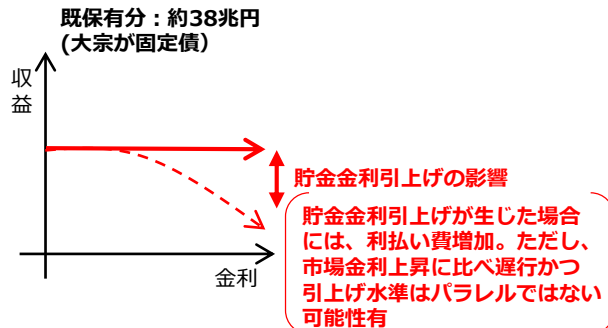
## 内外金利上昇・クレジットスプレッド拡大によるP/Lへの影響イメージ※1



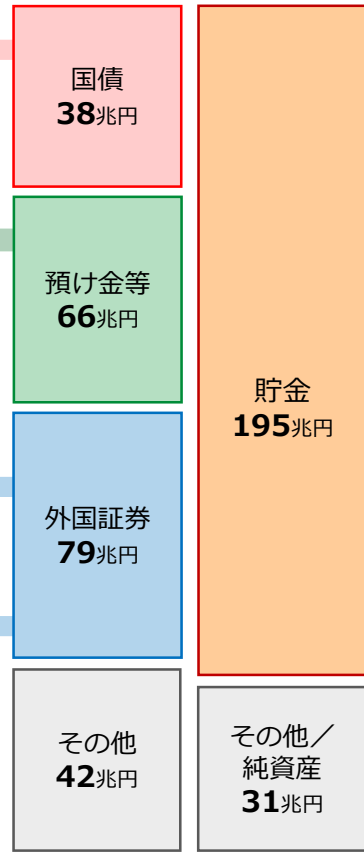
※1 足許の市場環境が当行P/Lに及ぼす影響の現時点におけるイメージであり、市場環境の変動又は当行の投資方針の変更によっては、実際の影響と異なる可能性有り。  
 ※2 金銭の信託で保有する国債を含む。  
 ※3 金銭の信託で保有する不動産ファンド (デット) 及びダイレクトレンディングファンドを含む。  
 ※4 投資信託はファンド内で資金調達を実施しており、内外金利差等により外貨調達コストが増減。

# 内外金利上昇・クレジットスプレッド拡大の影響②

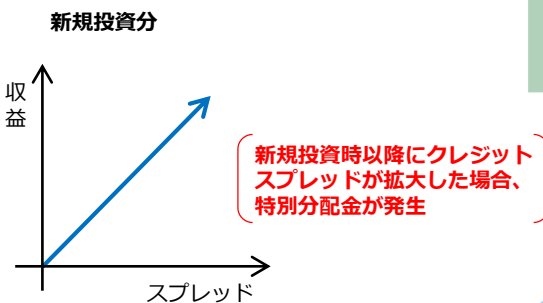
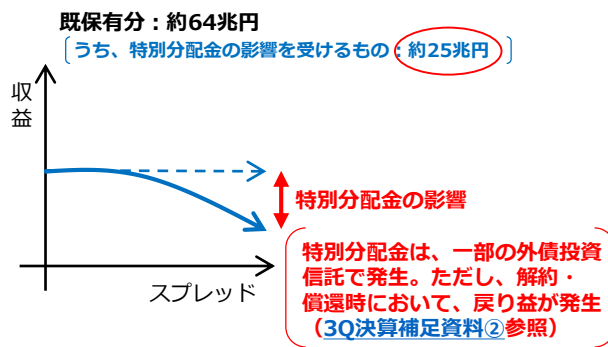
円金利リスク



(再掲)  
当行BS (単体)  
総資産**226兆円** (22/12末)

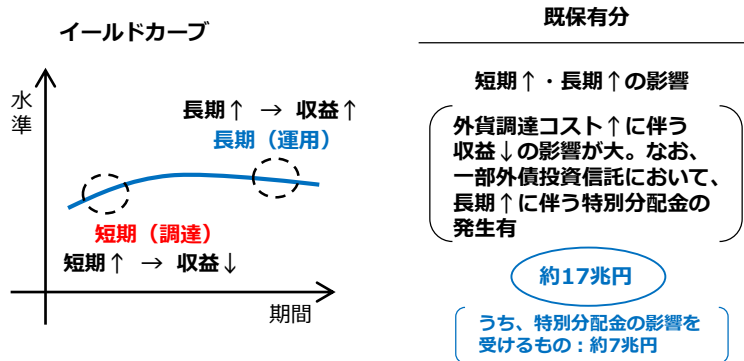


クレジットリスク



--> キャッシュフロー    → 収益

外貨金利リスク  
(長短金利差)

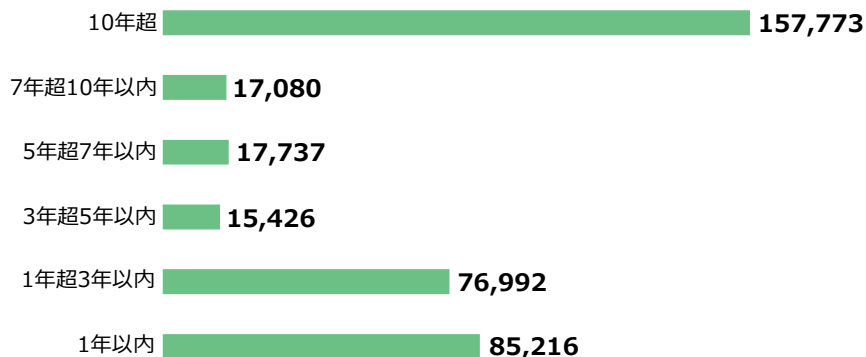


## (参考) 有価証券の残存期間別残高等

### 残存期間別残高 (期末残高ベース、22年12月末)

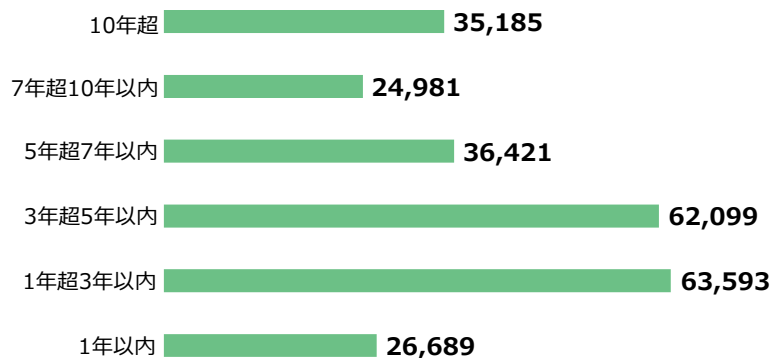
国債残高：370,226億円 (満期保有目的：118,997億円、その他目的：251,229億円)

(億円)



外国債券残高：248,971億円 (満期保有目的：31,312億円、その他目的：217,658億円)

(億円)



### 各種残高 (平均残高ベース、22年度第3四半期)

#### 国債・外国証券等残高

(億円)

	22年度第3四半期	
	平均残高	(参考) 期末残高
国債	455,898	370,226
外国証券等	783,031	779,140
うち外国債券	269,901	248,971
うち投資信託	512,227	529,048

#### 貯金残高

(兆円)

	22年度第3四半期	
	平均残高	(参考) 期末残高
流動性預金	115.2	118.4
振替貯金	11.1	11.4
通常貯金等*	103.4	106.2
貯蓄貯金	0.7	0.7
定期性預金	78.9	76.7
定期貯金	4.0	3.5
定額貯金	74.9	73.1
その他の預金	0.2	0.0
合計	194.4	195.2

\* 通常貯金等 = 通常貯金 + 特別貯金 (通常郵便貯金相当)